

「合宿の郷」づくり 科学でサポート

水上村と包括連携協定を締結

アスリート支援や地方創生の推進を柱とした包括連携協定が13日、本学と水上村の間で締結されました。これにより、本学は貴重な研究と人材育成の場を得、同村は本学が有する専門的な知識や技術を「合宿の郷」づくりをはじめとした地域創生や住民の健康増進等に生かしていくことになります。

協定書を手にする、左から中嶽村長、木下理事長、竹屋学長



科学を健康、運動に

木下理事長の話 「健康寿命の延伸」は日本、熊本、水上村にとっても重要なテーマ。そして、本学の名称はまさに健康を科学するという意味を持っています。100年先に向け、本学の科学が健康、運動につながる協定にしていきたいと思います。

研究、教育の拠点も確保

同村は2017年に準高地クロスカントリー施設「水上スカイヴィレッジ」を開設し、全国から高校、大学、実業団の陸上チームを中心とした合宿を誘致しています。コロナ禍前には、年間延べ1万人が利用し、年間宿泊者数も5千人を数えていました。

一方、本学ではリハビリテーション学科の松原誠仁准教授（PT）等が同施設でサテライト型のアスリート支援事業を展開。選手の動作分析、骨密度や血中乳酸値の測定、ストレスチェック、心理テスト等などを通じて得られたさまざまなデータを競技力向上に結び付ける取り組みを行っており、アスリートや指導者の間でも好評です。協定により、同村は科学的知見を生かすことができる合宿地として、全国各地の同様施設との差別化を図る一方で、研究や学生教育の場を提供することになります。

本学で行われた調印式では、中嶽弘継村長と木下統晴理事長が協定書に調印。本学からは竹屋元裕学長、松原准教授、益満美寿准教授（OT）、鎗木誠講師（PT）が出席し、調印を見守りました。

学生教育でも協働

竹屋学長の話 本学では2022年度に理学療法学専攻内に「スポーツリハビリテーションコース」を新設し、アスリート支援を進めていきます。自然や温泉に恵まれた水上村の皆さんと連携し、学生教育の場としても協働していきたいと思っています。

人づくり取り組む

中嶽村長の話 「スポーツの水上村」に貴学の「科学」を加え、人づくりや地域づくり等に取り組んでいきたいと思っています。さらに昨年起こった豪雨災害を教訓に、避難のための体力測定などにも今後ご支援いただければと思っています。

品質を第一に考える企業文化が必要

東京理科大・櫻井教授が講演

昨年7月に東京理科大、10月には熊保大に相次いで日本で初めての医薬品の品質保証に関する講座が開設されました。品質保証は医薬品に限らず、今後は臨床検査をはじめ医療の世界においても重要なテーマとなっ



てきます。講座開設は、将来を先取りする意味でも重要な意味を持ちます。

本学では2日（木）、東京理科大学の櫻井信豪教授＝写真＝を招き「改正GMP省令と今後の課題」と題した講演会が開催されました。櫻井教授は医薬品の品質保証に関する日本の第一人者で、櫻井教授が会議のため来学される機会を捉えて実現したものです。当日は熊本県庁や県内医薬品企業など外部の方々を含め、計55人の参加者がありました。

「GMP」とは高品質の医薬品を安定的に製造するために、医薬品の製造所が守らなくてはならないルールです。本講演では今年改正

されたGMPに基づいて、高品質な医薬品を製造するには、まずその土壌として品質を第一に考える企業文化が必要であり、加えて経営者の役割が重要であること、医薬品の品質を保証するためには直接の製造コストは上がるかもしれないが、不良率の低下や万一の回収などのコストを考慮すると、総コストはかえって低下し、企業活動にも貢献すること等を分かり易く説明されました。

（品質保証・精度管理学共同研究講座 蛭田 修特命教授）

銀杏アラカルト

◆**震度5 想定し防災訓練** 昨年秋に竣工したレストラン棟と今年リニューアルした図書館エリアに限定した防災訓練が3日

（金）行われました。震度5の地震が発生し、レストランと図書館で同時に火災が発生したという想定で、教職員と、ローソンや慶賓館の従業員の皆さん計29人が参加しました。また、居合わせた学生数人も一緒に屋外に避難するなど、臨場感のある訓練となりました。この日は、消火器や消火栓を使った放水訓練も併せて実施されました。

（総務課）

◆**チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座**

5日（日）、本学3号館で「チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座」が実施されました。8月29日の推薦選抜対策講座に引き続き2回目の「入試対策講座」です。新型コロナウイルスの影響で、前回はオンラインでの実施となりましたが、今回は対面とオンデマンドでの開催となりました。今回の講義

動画は13日～1月11日まで、受講申込者に限定公開されます。（入試・広報課）

◆**カンボジアからオンライン講義** カンボジアで看護師として働いている中野真由子さん（サンライズジャパン病院）によるオンライン講義が14日（火）に行われました。看護学科4年次生が履修している「特別演習」（選択科目）の一環で、中野さんは「カンボジアで働く看護師～看護師のキャリア」と題して現地から講義。カンボジアの歴史や現状、医療事情などに触れながら、自身が担う業務、海外で働くということ、キャリアアップの考え方などについて語りました。中野さんは長野県看護大でも同様のオンライン講義を行っており、「コロナ禍の現在、日本の大学とはオンラインでつながることが出来ます。今後日本の大学とは知識の交換や研究会などを通してつながっていききたい」と話していました。

日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」による助成金を利用し、本学では全学生（1443人、休学者及び認定看護師教育課程研修生を除く）に500円相当のクオカードを3日から順次配付しています。

本事業は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、経済的に困窮する学生たち

クオカードで 学生生活支援

を支援する大学等に対して寄附金を助成する制度です。本学では、すべての学生に公平に分配するため、クオカードを配ることになりました。全経費の約半分を大学が補助することで実現しました。食費に充てるなどして有効活用してほしいと思います。（学務課）

12月に入り、学内では連日、クリスマスイルミネーションが輝いています。学友会による年末の恒例行事。今年も6日から毎夕、いたるところで点滅しています。夕闇に浮かび上がる優しい光に包まれると、疲れた心もほぐれそう。写真はキャンパススクエアのイルミネーションです。点灯は17時から21時までで、25日まで続きます。

今週の1枚



図書館だより

お目当ての本ゲット...学生選書ツアー

11月27日（土）午前10時から1時間半、県内の書店で実施しました。コロナ禍ではありますが、大学危機対策本部の許可のもと、実現しました。学部生2人、教職員6人で、250冊を選びました。参加学生からは、「時間も丁度よく、たくさん読みたい本が選べました」「お金を理由に読みたい本をあきらめていました。これから読めると言うだけで夢のような時間を過ごせました」という声が聞かれました。選んだ本は、本人のおすすめコメントを付けて、展示コーナーに配架します。

次回は、学生が参加しやすい街中の書店を予定しています。

（図書館）

